

キラリ熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

令和6年度『子供の読書活動優秀実践園』文部科学大臣表彰



とうこう 東光保育園の皆さん

絵本を通じて親子の 触れ合いを生む

『絵本の読み聞かせ』は、絵本の楽しさやワクワク感が子どもに伝わりやすいので、親と子どもの触れ合いの場になっていると思います。」と話すのは、令和6年度『子供の読書活動優秀実践園』として4月に文部科学大臣表彰を受けた、東光保育園の坂本園長です。

『子供の読書活動優秀実践園』は今年度から始まった表彰で、文部科学省が子どもの積極的な読書活動の推進について、特色のある優れた実践を行っている園に対し、表彰をするものです。

東光保育園では、0歳児～5歳児のすべての保育室に『絵本コーナー』があり、毎日子どもたちが好きな絵本を読んだり、保育士が『絵本の読み聞かせ』をするなど、さまざまな読書活動に積極的に取り組んでいます。



▲『えほんはともだち』と書かれた『絵本コーナー』の前で絵本と一緒に読む園の子どもと保育士の皆さん

中でも、毎年3歳児のクラスで行う、園で借りた絵本を各家庭で読み聞かせをしてもらう『ふれあい絵本』は、長年続けている取り組みです。この取り組みでは、『子どもをひざの上に乗せて本を読んであげましょう。』と、親子の触れ合いを生むための約束があります。さらに、保護者が子どものつぶやきや絵本を読んだ感想を書くことも、触れ合いを実感する後押しになっています。

「子どもたちに、『絵本を読んでもらえたかな。』と聞くと『お母さんに読んでもらって嬉しかった。』と笑顔で答えてくれます。」と話す坂本園長や保育士の皆さんの顔も、園の子どもたちと同じ温かい笑顔で溢れていました。

男女共同参画 情報コーナー

ともに認め合い 支え合う 元氣と笑顔で参画するまち ふかや
関人権政策課 ☎ 574 - 6643

6月23日～29日は男女共同参画週間です！



今年のキャッチフレーズは、 だれもがどれも選べる社会に

深谷市では、『男は仕事、女は家庭』といった性別による固定的な役割分担意識にとらわれることなく、お互いを認め合い、それぞれの個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を目指し、『第4次深谷市男女共同参画プラン』を基に取り組みを進めています。

男女共同参画社会を実現していくためには、市民の皆さん一人ひとりの取り組みが必要です。この機会に、私たちのまわりのパートナーシップについて考え、みんなで『男女共同参画社会』を作っていきましょう。

ふっかちゃんの日常から
深谷が見えてくる

ふっか 散歩

130 ワモア川本～川本生涯学習センター・川本公民館編②～



今回も川本地区複合施設『ワモア川本』を紹介するよお。ワモアは、『WA(和)』と『MORE(もっと)』を合わせた言葉で、施設を訪れた人が和やかな気持ちになり、人と人との絆をつなぐ場所となるよう願いが込められているんだってえ。今回は2階に行ってみよう～！



▲ここは2階のホールだよお。いすとテーブルがあって、ゆっくりお話しができそうだね～。



▲多目的室(小)は防音室になっていて、なんとドラムやマイク、演奏に使う機材がそろっているんだ～。



▲によによによ～！大きな体育室！こんなに大きければ、バスケットボールでも卓球でもなんでもできるねえ～！ふっかちゃんも運動不足を解消しちゃおうかな！

ふっかちゃんの つぶやき

6月29日(土)にふっかちゃんバースデイパーティー2024を開催！詳しくはふっかちゃんのSNS、HPをチェックしてねえY(o≧ω≦o)Y



心の広場

川本北小学校5年(現6年)
黒沢 月彩さん



できないことは助け合う

私は、人権と聞いたときすぐに思い出したことがあります。お母さんと本屋さんに行った時のことです。店のドアを開けられないで困っている車いすの人がいました。私は「だれも助けてあげないのかな。どうしよう。」と思っていたら、お母さんに、「ドアを開けてあげて。」と言われたので、ドアを開けました。すると、車いすの人がうれしそうに、「ありがとう。」と言って中に入っていました。私は、困っている人を助けられてよかったなうれしくなりました。この本屋さんはおして開けるドアだから、体の不自由の人たちがくることも考えて、工夫をすればいいと思いました。

私は、車いす体験をしたことがあります。マットのだんさを上り下りするのも大変で、Uターンもできません。一人

でこぐのも大変で、おしてもらっても少しこわかったです。だれかの助けが必要となきがあると思いました。でも、車いすの人は自分から「助けてください。」と言うことができないことがあるそうなので、助けたいと思います。でも、すべてを助けてしまうと、自分では良いことをしたつもりが、その人からしてみれば「助けてくれるのは、うれしいけど自分でやりたかったな。」と思うときもあるそうです。

だから、自分からみてこう相手からみてこうと、考えてみる方がいいと思います。また、勇気をふりしぼって、その人に声をかけてみるのもいいと思います。

世界には、体の不自由な人がたくさんいます。目や耳、手や足の不自由な人などがいます。

だから、それぞれの不自由さに合った手伝い方をして、困っている人を助けて、不安をかかえる人が少しでも少なくなつて、安心して生活ができる世界になってほしいです。

困っている人を、どのように手伝ったらいいかを考えて、相手の様子を見て、本当に助けが必要だったら助けて、助けが必要ないときは見守っていききたいです。相手のことを考えて行動すれば、相手の人もほかの人を助けると思います。それをくり返すと、困っている人がへり、みんなが安心して生活できる平和な世界になると思います。そのために自分ができることをがんばりたいです。